

景真之階二十及敷屋花園公草淺

(報畫災震大部帝)



大正十二年九月十一日午前十一時五十八分關東地方未曽有の大震起り地震裂き生じ家屋倒壊し東京市内八十餘箇所より火災起り一面火の海と成り水道断水し風勢猛烈にして消防に衝き焼失家屋三十六万余戸死者七八万余員傷者其数算し難く殊に本所方面の避難者互に安全地を逃れし事も各報に接し文通社に接し其多敷の原野方面の廣場避難せし一陣の旋風猛火の渦を巻きあけ群衆の頭上落下し搬せし荷物の一時は散火せし爲に焼死者出たり其大の場所なり

焼失戸数三十六万六千二百六十二戸 焼失区内芝薺町神田区本郷京橋赤坂下谷浅草本所深川一犬島町一部

大正十二年十月十五日印刷
今年八月廿日發行

著作印刷者發行所 公所

東京市淺草區東馬場二丁目
浦野銀次郎
浦野銀次郎
電話四三六二番